

平成 18 年度飼料の検査及び検定事業の実績

今雪幹也、安部正雄

Result of inspection of Feeds and Examination for Feed with the Official Specification. (2006.4-2007.3)

Mikiya IMAYUKI, Masao ABE

要 約

飼料工場に立入検査を実施し、台帳等の確認及び収去飼料（合計 6 件）の栄養成分分析を実施したが特に問題は認められなかった。また、県内の牛用配合飼料製造業者から最終製品（合計 48 検体）を収去し、肉骨粉混入鑑定（顕微鏡鑑定）検査を実施したが肉骨粉等の混入は認められなかった。

結 言

本場では、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づく飼料工場への立入検査等により、飼料の安全性の確保及び品質の改善を図っている。そこで、立入検査に伴う飼料の検査、一般栄養成分分析、鑑定等を実施した。

材料及び方法

立入検査は、平成 18 年 4～5 月に 4 カ所、10 月に 2 カ所の延べ 6 カ所で行った。需要量が多い配合飼料を主体に、飼料添加物の適正な使用、飼料の使用基準の遵守状況、原材料の表示の適否等の確認及び指導を実施し、1 箇所につき 1 件の飼料収去（合計 6 件）を実施した。収去飼料については化学分析により一般栄養成分分析を実施し、成分分析値が表示票に適合していることを確認した。

また、BSE（牛海綿状脳症）発生防止対策として、県内の牛用配合飼料製造業者から最終製品を毎月 4 検体（合計 48 検体）収去し、肉骨粉混入鑑定検査を実施した。

結果及び考察

立入検査時に実施した台帳等の確認について問題は認められなかった。収去飼料 6 件について実施した栄養成分分析についても、異常は認められなかった（表 1）。

肉骨粉混入鑑定検査について、肉骨粉等の混入は認められなかった（表 2）。当配合飼料工場では「反すう動物用飼料への動物由来たん白質の混入防止に関するガイドライン」に基づく飼料業務管理規則が平成 16 年 1 月 1 日付けで策定されているが、管理が適正に実施されていると思われた。

種 類	件 数	異常の有無
配合飼料	5	0
混合飼料	0	0
魚 粉	1	0
合 計	6	0

種 類	件 数	混 入
乳用牛飼育用配合飼料	48	0
合 計	48	0